



# UNIC Tokyo Dateline UN

April 2001 Vol.20

国際連合広報センター

## 「UNギャラリー」オープン

ホルケリ国連総会議長と加藤登紀子UNEP親善大使らが  
開幕式典に参加



「UNEP世界環境写真コンテスト1999-2000」  
受賞作(上から一般部門金賞、銀賞、デジタル  
特別賞の作品)



「UNギャラリー」開幕式典におけるテープ・カット(左から、文部科学省の白川氏、ホルケリ国連総会議長、加藤登紀子UNEP親善大使、外務省の高須氏、東京都庁の渡邊氏)

2001年4月3日(火)東京渋谷のUNハウス(国連大学ビル)において、国連広報センター主催の「UNギャラリー」のオープニング式典が開催されました。「UNギャラリー」の第一回の展示は、4月4日(火)から6月8日(金)まで、「国連環境計画(UNEP)写真展」を行います。展示される写真は(株)キャノンの協力で4年毎に行われている「UNEP世界環境写真コンテスト1999-2000」の受賞作品です。

このコンテストには、世代を超え世界各国から多くの方々に応募されています。これはまさに、地球上に住む60億の人々一人ひとりが国連の活動に主体的に関わりを持ってほしいという国連と、そのショーケース「UNギャラリー」の理念そのものです。

オープニング式典当日は、桜の花びらが風に舞う穏やかな小春日和となり、来日中のハッリ・ホルケリ第55回国連総会議長、UNEP親善大使の加藤登紀子氏をはじめ、外務省、文部科学省、東京都、大使館、国連関連機関、国連と関係を持つNGO、報道陣などの130名近くの関係者がオープニング式典に参加しました。

冒頭の祝辞で、ホルケリ議長は、「UNEP写真展はまさしくUNギャラリーの設立目的とメッセージに適し

冒頭の祝辞で、ホルケリ議長は、「UNEP写真展はまさしくUNギャラリーの設立目的とメッセージに適し

UNギャラリー会場を訪れる多数の来場者



### INSIDE

「UNギャラリー」オープン	2
ホルケリ国連総会議長訪日	3
国際婦人デー	4
国連水の日	5
国際人種差別撤廃デー	5
世界保健デー	6
国連ボランティア計画(UNV)	7
UNギャラリーからのお知らせ	8

<http://www.unic.or.jp>



UNギャラリー入口1階部分



レセプションで歌を披露する加藤登紀子 UNEP 親善大使

たものと言えるでしょう。これらの写真は地球の環境やそこに住む人々を写し出し、国連が日々取り組んでいる地球規模の挑戦を私たちに身近に伝えてくれるものです。そして、国連の取り組みの成功は、世界中の皆さんの参加と支援にかかっているのです。」と力強く訴えました。

UNEP 親善大使として活躍している歌手の加藤登紀子氏は祝辞の中で、自然豊かな離島に移り住んだ友人の話に触れ、そのような場所でも海岸に都市部からの廃棄物が流れ着く現状を憂慮しました。この UNEP 地球環境写真展を一人でも多くの方に見ていただき、自らの生活スタイルを振り返る機会として欲しいと述べました。

文部科学省の白川哲久国際統括官も祝辞において、「UNハウス」がさらに一般の人々にとって親しみやすいものとなり、国連の日本における活動が身近となる「UNギャラリー」の開催に心からの賛同の意を示しました。

これらの祝辞の後、ホルケリ総会議長、加藤登紀子氏、高須幸雄外務省国際協力部長、白川哲久文部科学省国際統括官、田邊隆一東京都知事本部外務長、ラメシュ・タクール国連大学副学長らによるテープ・カットが行われました。

続いて、UNギャラリー2階においてレセプションが催され、加藤登紀子氏が本業である歌手として魅力的な歌を2曲披露してくださり、参加者も一緒に歌うなどして、会場は朗らかな雰囲気に包まれました。

「UNハウス」は、現在では国連大学ビルの通称として使われています。今年1月にアナン国連事務総長が訪日し、同ビルを訪れた際にそれまでの国連大学の近づきたい雰囲気から、さらに広く一般の皆様に親しみやすい施設となることを目指し、「UNハウス」と名づけました。

今回の「UNギャラリー」はその初めての具体的な試みで、写真やパネルなどの展示を中心とした多目的スペースとして4月4日(水)から一般公開され、今後も日本にある22の国連機関やNGOとの協力のもと、国連の様々な活動を広く皆様にご紹介していく場にしていきたいと考えています。

また、今回「UNギャラリー」オープンを記念して、特別に4月3日から6日の4日間、国連切手の販売および切手貼付済みハガキの国連ニューヨーク本部での投函サービスが行われました。国連切手はニューヨークやジュネーブなどの国連事務局内から投函される郵便物においては使用可能ですが、日本国内の郵便では使用されておりません。そのため、今回の国連切手販売は、日頃目にする機会の少ない国連切手を直に購入し、使用できる機会とあって学生や収集家の間で大変好評でした。

ギャラリー内(1階)の様子



作品に見入る加藤登紀子 UNEP 親善大使



# ホルケリ国連総会議長、訪日

## 国連がグローバル化社会における市民に貢献する 必要性を強調



UNギャラリー開幕式典で祝辞を述べる  
ホルケリ総会議長

ハッリ・ホルケリ国連総会議長は4月1日（日）に日本の外務省賓客として来日し、6日間滞在した後、4月6日には中国公式訪問のため北京に向けて離日しました。

到着翌日の4月2日（火）、ホルケリ氏は、日本の森喜朗総理大臣と会談し、その中で森総理は安全保障理事会（安保理）改革の実現に向けて日本政府の強い期待と、ホルケリ氏の改革に対する努力を支援する意向を示しました。

ホルケリ氏は、「安保理改革は7年におよび話し合いが続けられており、昨年9月のミレニウム・サミットで生じた国連改革全般に対するはずみの後、加盟国の国々の間では改革に対する期待が高まっています」と指摘し、議長自ら最善を尽くすことを約束しました。

ホルケリ議長は、安保理改革に関する最終的決断は政治の最高レベルで下されることになるので、各国の首都にある政府が積極的にこの交渉に参加することが極めて必要だと強調しました。

また、同会談では、アフリカ問題および、開発と平和に関する挑戦に対処する上で「人間の安全保障」に焦点を当てることの重要性についても話し合いが行われました。

その後ホルケリ氏は、河野洋平外務大臣と会談し、中東問題、「国連文明間の対話年(2001)」、HIV/エイズ問題などの国連に関する多くの問題について意見交換を行いました。最近の地球温暖化に関する京都議定書の進展については双方から失望感が表明されたものの、今後政治的な解決がなされるだろうという期待が出されました。

4月4日（水）には、総会議長たつての希望で、一行は広島に足を伸ばし、原爆資料館や原爆ドームなどを見

学しました。また、藤田広島県知事および秋葉広島市長と会談し、「被爆から見事に復興し、美しい街によみがえった広島は象徴的な存在」との印象を述べ、「広島

UNEP 写真展の作品を鑑賞しながら談笑するホルケリ  
総会議長と加藤登紀子UNEP親善大使



ハッリ・ホルケリ  
(Harri Holkeri)  
第55回国連総会議長

第55回国連総会議長を務めるハッリ・ホルケリ氏は豊富な政治経験を有し、巧みな調停者および合意形成者としての評判も高い政治家として知られています。同氏は1987年から1991年までフィンランドの首相を務めたほか40年間にわたり、自国および国際社会でいくつかの政治・経済関連ポストを歴任しています。

過去数十年間、フィンランドでもっとも著名で名声の高い保守派政治家であるホルケリ氏は、1965年から1971年まで国民連合党の書記長を、1971年から1979年まで同党の党首をそれぞれ務めました。1970年から1978年にかけて、ホルケリ氏は国会議員として活躍し、1978年から1997年にかけてはフィンランド銀行の理事も務めています。首相として同氏は自党と社会民主主義党の連合政権を率いました。

ホルケリ氏は1937年1月6日生れ。同氏はヘルシンキ大学から政治学修士号を取得しています。

## 「女子差別撤廃条約 選択議定書」が発効

男女平等と女性による人権の完全な享受に向け、さらなる転機が訪れました。「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約選択議定書」がついに2000年12月22日に発効しました。

1999年10月6日、女性にとっての画期的な決定として、国連総会は無投票で、21条からなる同条約選択議定書を採択し、全ての条約締約国に対し、できるだけ速やかにこの新議定書の締約国となるよう呼びかけていました。ジェンダー問題と女性の地位向上に関する特別顧問を務めるアンジェラ・キング事務次長補は、この新たな選択議定書が、女性の人権の保護と推進のために、有意義かつ実効的な役割を果たすだろうと期待しています。

2001年3月末までに選択議定書の批准あるいは加入を行っている国は19カ国で、選択議定書には計66カ国が署名を行っています。

詳細は当広報センターのホームページ (<http://www.unic.or.jp>) でご覧いただけます。また、女性の地位向上部ホームページの「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」のページ (<http://www.un.org/womenwatch/daw/cedaw>) もご覧ください。



## 国際婦人デー（3月8日）

コフィー・アナン国連事務総長メッセージ



1976年3月8日、私たちが国連で最初の「国際婦人デー」を祝ってから、四半世紀が経過しました。この25年間を振り返ると、私たちには祝福すべき理由が多くあります。法律の改正から参加の拡大に至るまで、カイロ人口開発会議から北京行動綱領に至るまで、さらには経済的エンパワーメントから知的解放に至るまで、女性の地位向上については、大きな前進が見られました。

しかし、今年の国際婦人デーはまた、世界の女性の大半にとって、日常生活が引き続き困難で、時には危険な闘争であるということ想起させるものでもあります。男女平等、開発および平和という目標は依然

として私たちの課題の中心に据えられ、達成からは程遠い状態にあります。そして昨年は、これらの目標がより一層の脚光を浴びました。

昨年6月、「北京+5」国連特別総会は、北京綱領の実施について、いくつかの点で前進が見られる一方で、依然として大きな進展が達成できていない点も多いことを示しました。10月、国連安全保障理事会は女性、平和および安全に関する初めての公開討議を行い、これら課題のうちもっとも緊急を要するもののひとつを検討しました。

現代の紛争の悲劇的な特徴のひとつとして、女性と少女に対するその影響が不釣り合いに増大していることがあげられます。女性と少女は紛争の発端を作ったわけでも、これを遂行しているわけでもないにもかかわらず、しばしば敵を辱め、社会全体の士気と抵抗力をくじく手段として、特定の標的とされています。旧ユーゴスラビアとルワンダに関する国際刑事裁判所でも、また、国際刑事裁判所ローマ規程の採択においても、この嘆かわしいやり方の温床となっている不処罰の文化を終わらせるための措置が講じられました。私たちはこの作業をさらに発展させなければなりません。

なすべきことは、まだまだたくさんあります。安全保障理事会で採択された決議が明らかにしているとおり、私たちはいくつかの面で女性、平和および安全に関する問題に取り組まなくてはなりません。女性は武力紛争の最初の犠牲者となることが多い一方で、解決に向けた鍵を握る存在としても認識されなければなりません。女性が、全世界の和平プロセスにより実効的に参加できるよう今後も努力が必要です。

女性には特殊な技能と経験があり、彼女たちは全ての和平プロセスの段階において貢献できる、という認識が強まっています。紛争時において、女性はしばしば家庭、農地および村落の運営を引き受けています。女性は緊張状態の根源的原因を理解し、その地域や国において和平構想を支持する可能性がもっとも高い権力集団がどれかを知っています。女性は障壁や分裂を越えて協力し、意思疎通を行うことができます。

私たちはこの潜在能力をもっと活用しなければなりません。これら女性の経験が、国内でも国際舞台でも、あらゆるレベルで繰り返し上手く活かされるべきです。私たちは政府、NGO、地域の団体および民間セクターなど、すべて

の活動主体の間でパートナーシップを構築し、より多くの女性を交渉と意思決定の場に取り込まなければなりません。私たちは、紛争の予防と解決への女性の十分な参加が、21世紀における平和と安全の維持および促進に不可欠だという理解に基づき、行動しなければなりません。今年、2001年の国際婦人デーに際し、これをより平和的なミレニアム（千年紀）に向けた私たちの信条としようではありませんか。

## 国連水の日（3月22日）

### コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

安全な水の利用は人間の基本的なニーズであり、よって基本的な人権でもあります。水の汚染はすべての人々の健康を身体面でも社会面でも危険にさらします。それは人間の尊厳を辱めるものです。

しかし、清潔な水は今日でも、多くの人々が手にできない贅沢品です。全世界では10億人以上の人々が、改良水源を利用できない状態にあり、25億人近くの人々は、基本的な衛生設備なしで暮らしています。これらの人々は世界の貧困層においてもっとも貧しく、かつ、もっとも健康状態の悪い人々と位置づけられます。実際、安全な水の欠如は、開発途上地域の病気と死亡要因の80%に関係していると見られています。

「国連水の日」は私たちにとって、グローバルな視点から水の問題を考え、あらゆる場所のあらゆる人々が安全な水を利用できるようにするためのグローバルなイニシアチブを支援する機会です。昨年、ユネスコ事務局長は「世界水質評価プログラム（WWAP）」の発足を発表しました。現在では国連システム全体のプログラムとして採択されているWWAPは、人間の開発において非常に重要でありながら、しばしば見落とされがちな水の役割に世界の関心を集めるものとなっています。

この新世紀において、水、その衛生およびその公平配分は、私たちの世界に重大な社会的課題を提起しています。私たちは衛生的な水のグローバルな供給を確保し、誰もがこれを利用できるようにする必要があります。どうか私と一緒に「国連水の日」を祝ってください。そして、すべての人々に清潔で、安全で、衛生的な水を提供するという私たちの誓いを新たにしていきましょう。

## 国際人種差別撤廃デー （3月21日）

### コフィー・アナン国連事務総長メッセージ

私たちはきょう、「国際人種差別撤廃デー」を迎えます。この国際デーは、人種的憎悪をなくすために世界がこれまで達成した多くの措置を祝す日であるばかりでなく、残された課題について考え、これを克服するという私たちの誓いを新たにする日でもあります。この日は1960年、南アフリカのシャープビルで、警察がアパルトヘイトの「パス法」に反対する平和的なデモ行進に発砲し、69人が死亡した虐殺事件に因み、3月21日に設定されました。私たちは皆、アパルトヘイトがすでに過去のものとなったことを喜ばなくてはなりません。今年、全世界からの代表団は自由な南アフリカで開催される「人種主義、人種差別、排外主義および関連の不寛容に反対する動員の世界会議」に



国内初の全人種による選挙で投票するネルソン・マンデラ氏。同氏はのちに黒人初の大統領となる。(ダーバン近郊、南アフリカ)



拘留中の拷問が原因で死亡したとされている黒人指導者スティーブ・ビコ氏の墓(キング・ウィリアムズ・タウン、南アフリカ)



有色人種が携帯を義務付けられていた「パス」を手にする黒人青年。このパスによって居住地や職業が限定されていた。(南アフリカ)

## 国連本部ホームページ に新サイト “UN Works”が追加

国連本部のホームページ (<http://www.un.org>) に新たに “UN Works” のサイトが追加されました。

“UN Works” は国連の幅広い活動を一人でも多くの皆さんに知っていただくために作られました。平和、子ども、文化、開発、緊急援助、環境、健康、HIV/AIDS、人権、労働、女性およびビジネス等のテーマ別に、国連の活動が一人ひとりの生活にどのように役立っているかを具体的に説明しています。

是非一度 “UN Works” のサイトをご覧ください。



<http://www.un.org/works>

参集し、私たちの世界をむしばみつつけているさまざまな形態の人種主義について話し合います。

これらの形態の不寛容はアパルトヘイトほど目立たないことが多いものの、これと同様に陰湿なものです。世界中で、難民、先住民および庇護申請者は依然として人種差別という屈辱を受けています。少数民族は依然として支配的民族に比べ、貧しかったり、失業していたり、教育水準が低い場合が大変多くなっています。少数民族は政治機構の代表に占める割合が低く、受刑者に占める割合が高くなっています。これらの人々は良質の医療へのアクセスを限られているため、平均寿命も短くなっています。

このような形態の人種的不正は、私たちの時代において厳然たる現実となっていますが、将来においては、改善されるべきです。私たちがいつの日か、2000年を人種差別終焉の始まりの年として祝えることを期待しながら、世界会議の成功に向け、皆で手を携えてゆこうではありませんか。

## 世界保健デー（4月7日）

### コフィー・アナン国連事務総長メッセージ



精神障害は、しばしば衰弱していく身体的徴候をさらけ出すことなく、人間の心の奥深いところをむしばんでいます。このため、このような障害に苦しむ人々の多くは、極めて治療可能なことが多い自分たちの病を恥あるいは汚辱と感じ、ひとり悩んでいます。この問題にグローバルな関心を向けるため、世界保健機関(WHO)は今年の「世界保健デー」に当たり、精神保健に関連する医学的研究、治療政策および倫理的諸問題に取り組むことにしました。「疎外でなく、治療の勇気を」というこの日のスローガンは、国際社会が精神保健上の懸念にオープンかつ率直に取り組む必要性をよく表しています。これは、とても急を要する懸念となっています。

今日、4億という人々が精神と脳の障害で苦しんでいます。精神分裂病、飲酒および双極性障害、強迫性障害は世界において障害度の最も高い病気とされています。しかも、この数字は特に開発途上国の人々のあいだで、今後20 - 30年間に急増するものと予想されています。

しかし、精神保健の問題は大きな社会的・経済的負担となっているにもかかわらず、世界の国々の40%以上は明確な精神保健政策を何ら持たないばかりか、精神保健プログラムのない国々も30%を超えています。このような精神保健上の危機に取り組むためには、予防と治療の両面を組み込んだグローバルな戦略が必要です。この問題は5月の世界保健総会年次会合において、WHOの加盟国191ヶ国が取り上げ、10月に発表される世界保健報告書のなかで評価される予定です。しかし、今後私たちにできることはまだ他にもあります。

各国政府が精神保健のニーズを充足するために資金を割り当て、公共政策を確立すべき時が来ています。私たち一人ひとりにとっても、自分自身の恐怖に直面し、精神障害に対する誤解を克服すべき時が来ているのです。率直さと理解を通じて、私たちは精神障害を取り巻く社会的汚辱という壁を突破することができます。今年の「世界保健デー」に当たり、これらの任務に取り組むことを約束し、精神障害に苦しむ人々がひとりで悩むことがないようにしていきましょう。

# 国連ボランティア計画 (UNV) 寄付金寄贈式典

## 中田厚仁記念基金、UNV に10万米ドルを寄贈



中田武仁氏、3月14日の寄贈式典にて

国連ボランティア名誉大使の中田武仁氏のイニシアチブによって設立された公益信託「中田厚仁記念基金」は、このたび国連ボランティア計画 (UNV) の人間安全保障分野における諸活動に対して、10万米ドル(約1250万円)を寄贈することを決定しました。この寄付金は、国連ボラン

ティアが従事する人間安全保障分野の現地活動、特に1994年にルワンダで勃発した大量虐殺の結果、未亡人となり、家庭を経済的に支えている女性に対する識字教育プログラムをさらに拡大するために供与される予定です。国連ボランティアたちは、必要となる生活諸経費を支給されて、世界各国で平和と開発のためにあらゆる現地活動を行なっている意欲に満ちた専門家です。ルワンダで活動する国連ボランティアも、年間派遣者総数約5千名に達する国連ボランティアの一部です。

中田武仁氏の御子息、中田厚仁氏は、国連ボランティアとして、国連カンボジア暫定統治機構 (UNTAC) の任務遂行中、1993年4月8日に現地で殺害されました。中田氏はその後間もなく、第一線のビジネスマンとしてのキャリアを辞し、国際的な人権保障、国際社会における国連の果たすべき重要な役割の推進といった御子息の遺志を継ぐことを決断され、UNVの要請を受けて国連ボランティア名誉大使に就任されました。以来、中田氏は国内外において、あらゆる機会に応じて、UNVの広報活動に尽力しています。UNVの公務として現地活動の視察に訪れる際には、かつてのカンボジアでの活動がそうであったように、中田氏は実際に身体的な危険を伴う任務を担った国連ボランティアらが活動する国々を優先的に選んで訪問しています。

また、中田氏の設立した公益信託「中田厚仁記念基金」は、カンボジアにおける様々な開発事業をはじめ、その他の多くの国際ボランティア活動を財政的に支援しています。「中田厚仁記念基金」は、世界中に展開する国際的なボランティア活動を、財政的、精神的な意味で支援、激励することを目的としています。今回の、基金からUNVへの10万米ドルの寄贈に加えて、中田氏個人より、2001年ボランティア国際年を記念して、同計画の諸活動一般に対して5千米ドルがUNVに寄贈されました。この寄贈式典は、UNV事務局次長来日の機会を利用して2001年3月14日にUNハウスにて行われました。

## 国連広報センター 国際ロータリー情報研修会 に参加

去る2月24日、宮城県松島で行われた国際ロータリー第1ゾーン・ロータリー情報研修会において当広報センター広報官、妹尾靖子氏が「21世紀における国連の役割」と題した講演を会員200名が集まるなか行いました。

国際ロータリーは、世界の多くの国において奉仕の理想を柱とし、奉仕活動を推進しています。同NGOが1985年から始めた「ポリオ・プラス」というプログラムは、国際協力の分野でその高い実効性で評価を得ています。この20年にわたるプログラムは、WHO(世界保健機関)やユニセフとの協力のもと開発途上国のポリオ撲滅に協力するもので、これまで世界のロータリアンから寄付として集められた約400億円の資金援助によって、20億人の子どもが受益者となっています。



花束を贈呈される妹尾靖子国連広報センター広報官(中央右)

研修会場の様子



## 国連ボランティア名誉大使 中田武仁氏メッセージ



寄贈式で目録を手渡す中田氏(左)

複雑な国際情勢の中、およそ20年にわたる内戦の末、すっかり戦いに疲れ果てたカンボジアの人たちの「もう戦いは止めよう。そして自分たちの望む国を、暴力に寄らずに、自分たち自身の手で造りたい」という切なる願いに力を添えるため、国連ボランティアとしてUNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)に、「世界市民」の一人として参加した。今は亡き我が息子、中田厚仁は、カンボジアの人たちが平和で民主的な国造りをするために自ら持つ全ての能力、情熱、エネルギーを注いでいた。まさにその任務遂行中、1993年4月8日、法と秩序の世界を信じながらも、その力の及ばない所で25年3カ月の短い自らのいのちをささげて殉職した。

私たちの地球上に生きる全ての人は皆等しく人間としての尊厳をもって、豊かに生き、そしてその生涯を健やかに全うする権利を持っている。今、世界の各地で肉体的にも、精神的にも激しい消耗に耐えながら、金銭の見返りを求めることもなく、自らの生命を危険にさらしてでも、「世界市民」として、この権利を譲るために献身的に日夜尽力している国連ボランティアを私は自らの幸いの全てをかけて支えたい。

厚仁が信じたもの、追い求めたもの、そして残していったもの、それらは今、私の心の中に生きている。厚仁の意志を引き継いで微力を尽くしている私が、国連ボ

ランティア名誉大使として、国連ボランティアの人たちの活動現場を訪れる時、いつも聞くこの人たちの言葉は「毎日忘れないようにしているのは、出来るだけ多くの人たちのいのちを救い、人々の苦しみを和らげるため、今私たちはここにいる、ということです。」

私の創唱を受けて、21世紀の幕開け、西暦2001年を「ボランティア国際年とする」と第52回国連総会が全会一致で正式に宣言した。今こそ、私たち一人一人が「良き世界市民」となって、世界中全ての人々を生きる喜びと痛み分かち合いつつ、あらゆる人が人間としての尊厳を持って豊かに生き、そしてその生涯を健やかに全う出来る社会を造り上げよう、と誓い合ったのである。

西暦2001年、「ボランティア国際年」の開幕にあたってコフィー・アナン国連事務総長は次のように述べた「ボランティアこそが、最も『良き世界市民』である。」

国連ボランティア名誉大使

中田武仁

### UN ギャラリーからのお知らせ

来訪者の方には1階入口において、各人一枚ずつUNギャラリーのシール(右下)を胸元につけていただくよう、お願いしております。

また、ギャラリー内ではその時々テーマに合わせたビデオ上映も行っております。

入館時間：10:00-17:30

(土・日、国連の休日は閉館)



ギャラリー内ビデオ上映の様子



来館者用シール



## 発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

E-mail: unictok@blue.ocn.ne.jp